

子どもを“聴く” ということ

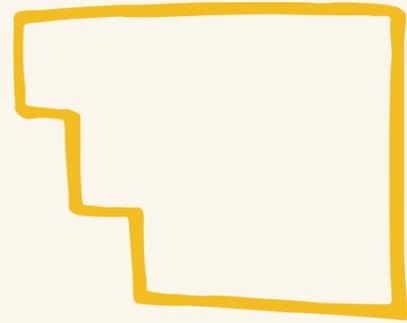


日野市子ども条例によせて

弁護士 鳥生尚美
日野市こどもオンブズパーソン



あけぼの綜合法律事務所
第二東京弁護士会所属



鳥生尚美



愛媛県出身

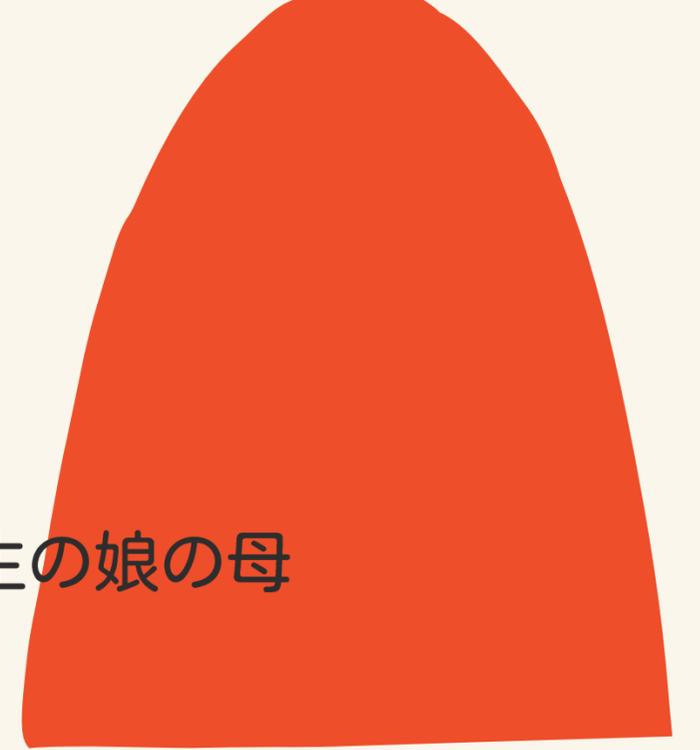
小学生と中学生の娘の母

弁護士

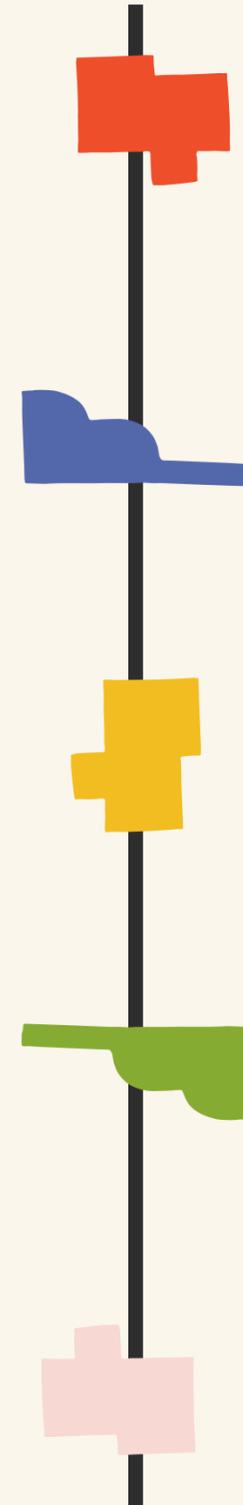
一般社団法人オンネリ共同代表

北欧諸国のジェンダー平等法制研究

日野市子どもオンブズパーソン



My milestones



女のくせに「怪力」な子ども時代

新人弁護士の衝撃

過疎地での根深い男尊女卑社会

出産・子育てで直面した壁

自営業者の妊娠出産子育て
内面化されていたジェンダーバイアス

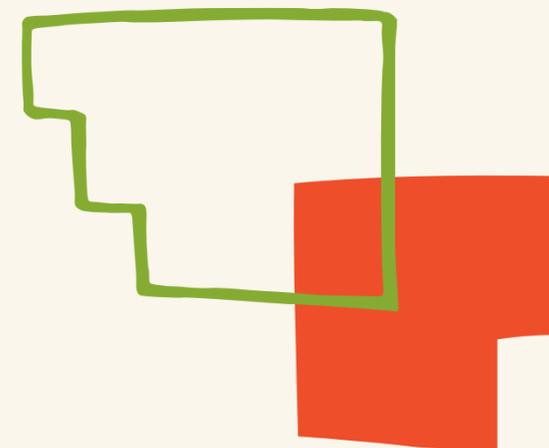
第二子の出産，北欧との出会い

先輩弁護士の背中と北欧視察
「絶望」と「希望」

法教育と家事事件と北欧研究

子どもがいる家庭の離婚前後の支援（ADR・面会交流支援）
子どもの権利・ジェンダー平等・法教育（人権教育・包括的性教育・主権者教育）

第二子の出産， 北欧との出会い



先輩弁護士の背中とジェンダー論

切り開かれてきた軌跡を見返す
「社会通念を変える」

ノルウェー視察と絶望

それまでの人権・平等・子どもの権利の概念崩壊
何もかもが違いすぎて、何も持ち帰れない！





目指す社会から
自分の生活を選ぶ

「二世代前までは…」

性別役割分業社会だった北欧
今なお残る共通の課題

→どうやって？

「切り開かれてきた軌跡」と「
進みたい道」

選択肢を知る

自分はどの社会を選ぶか
どんな社会を子どもたち
に渡したいか

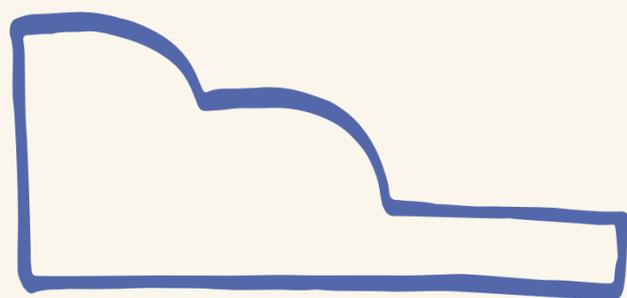
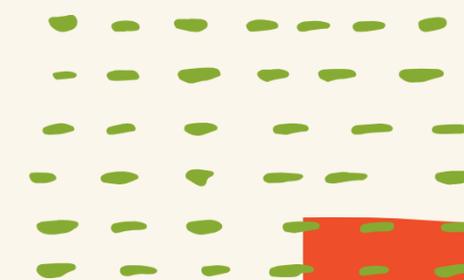
絶望のあとの「希望」





What motivates me

一人一人が個人として尊重される
平等な社会を
子どもたちに渡したい！



「子どもオンブズパーソン」って
？

日野市子ども条例（平成20年制定）

第16条

市は、子どもの健やかな成長を支援する目的で、子どもが、いじめ、虐待などの権利侵害その他の不利益を受けた場合に、安心して容易に相談や救済を求めることができる体制を整備します。



令和6年3月29日 日野市子どもオンブズパーソン条例制定

【目的】

子どもを権利侵害等から救済するとともに、子どもの権利についての理解を広めることにより、全ての子どもが自立した個人としてひとしく健やかに成長することができるよう、差別的扱いを受けることなく、個人として尊重され、その権利が保障、擁護される社会を実現すること（第1条）

【特徴】

市長の附属機関（第3条）

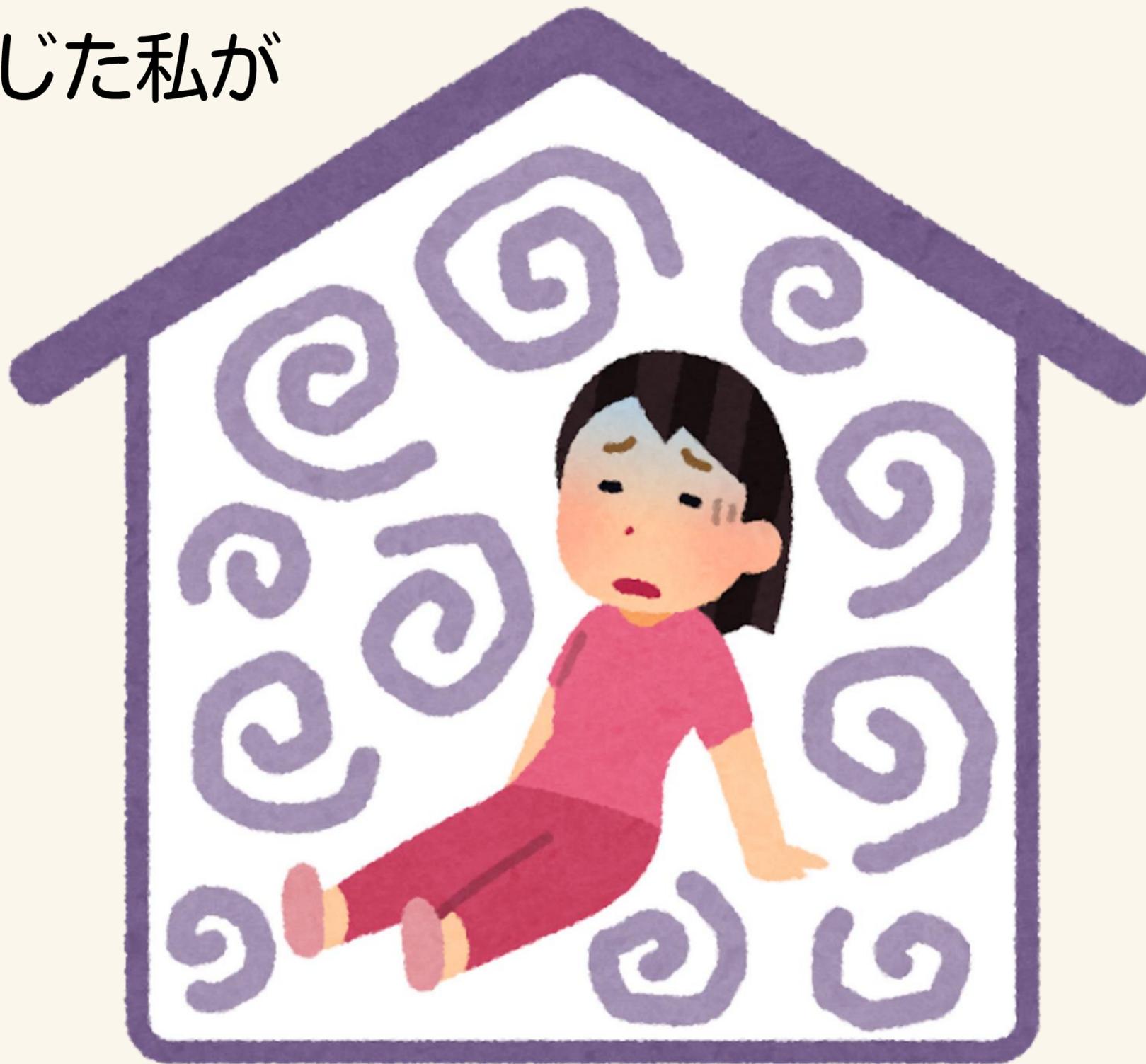
市の機関と連携（第8条2項）しつつ、市の機関からは独立性が尊重される（第9条）



第7条 子どもオンブズパーソンの職務

- (1) 子どもの権利侵害等に関する相談に応じ、必要な助言及び支援を行うこと。
- (2) 子どもの権利侵害等に関する救済の申立て又は自己の発意に基づき、調査し、及び調整すること。
- (3) 子どもの権利侵害等に係る事案について、是正等の措置を講ずるよう勧告又は要請すること。
- (4) 子どもに係る制度の改善を求める意見の表明をすること。
- (5) [第3号](#)の規定による勧告、意見表明並びに[第19条第1項](#)及び[第2項](#)の規定による報告の内容を公表すること。
- (6) 相談及び救済の申立ての処理状況等について、毎年度市長及び議会に報告し、その内容を公表すること。
- (7) **子どもの権利を尊重し、保障、擁護することについての理解を広めていくこと。**

10年前、行き詰まりを感じた私が



第二子の出産， 北欧との出会い

先輩弁護士の背中とジェンダー論

切り開かれてきた軌跡を見返す
「社会通念を変える」

ノルウェー視察と絶望

それまでの人権・平等・子どもの権利の概念崩壊
何もかもが違いすぎて、何も持ち帰れない！



子どもオンブツド@ノルウェー



子どもオンブツド@ノルウェー

- ノルウェーで1981年設立：世界初！
⇒現在は120か国以上に設立
- 法律に基づく公的な国の機関
- 公募により選出され国王により任命
- 任期制
- 政府から独立した機関

子どもオンブッドとは…



番犬です

。

子どもの権利に関して問題があると、

- ・政府に書面で警告
- ・子どもに関するサービスを提供している団体に対するセミナーを実施
- ・法制定や改正にあたって声明を公表
- ・大臣や議員とミーティング

子どもたちの声を代弁するスピーカー

女性、子ども・若者の声が反映されると、
社会がよりよくなり、持続性をもつ



1 子どもを守る

2 教育へのアクセス

3
画 子ども社会への参

子どもの社会参画

子どものことは 子どもに聞く

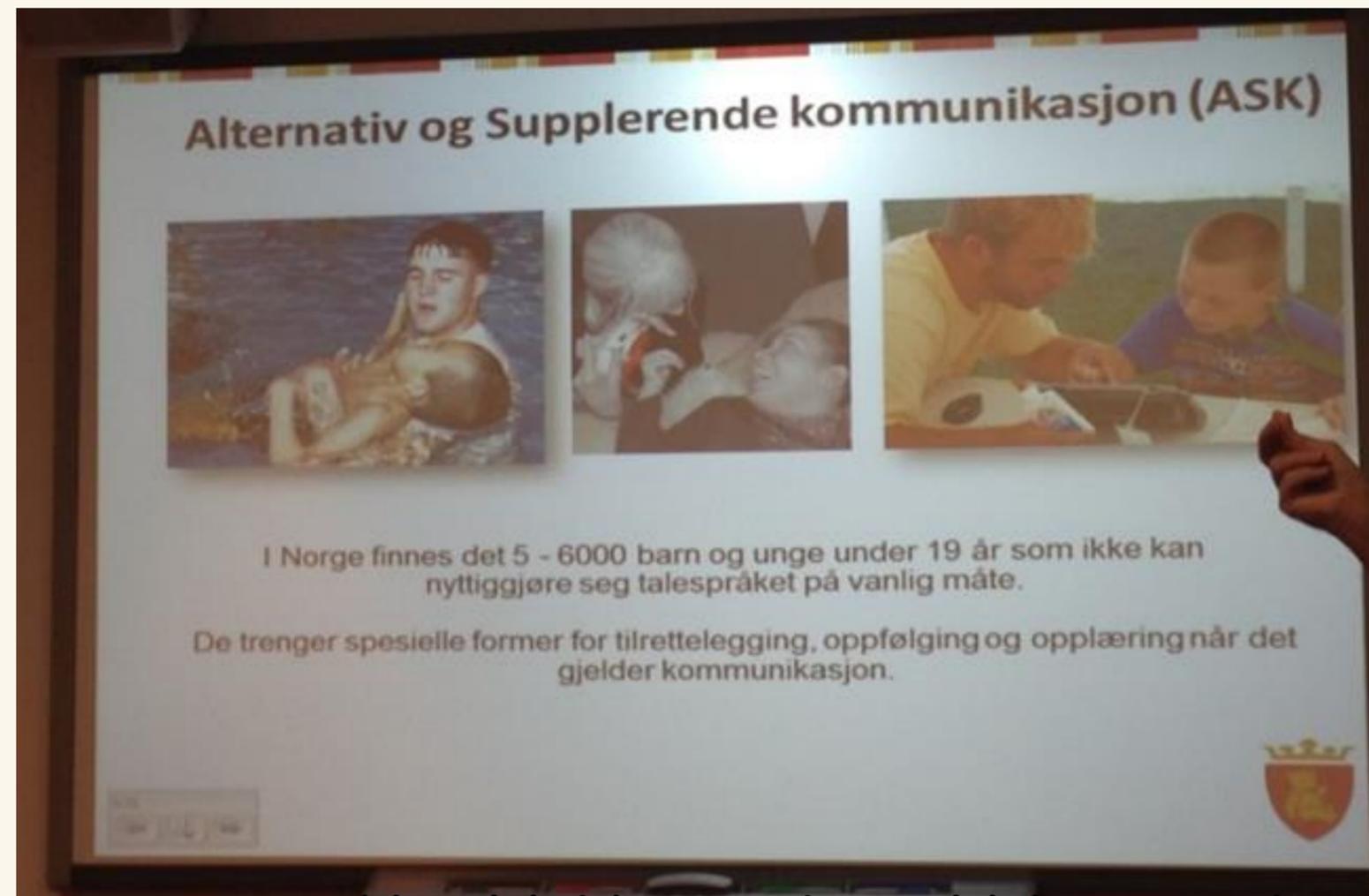
話しをすることができる場所があることが大切

「声」をきいてもらうためのサポート

ボーネフロググ = 「歩いてついていく」

子どもたちは、「今の子どもたちの生活」の専門
家
子どもたちの知識・経験を社会に生かす





概念が入っていない（年齢的に幼い等），障がいがあるなど
「ことば」がなくても意思のある人間

受け取る側（大人）の能力・感受性・意欲の問題
「そのために時間と労力を払うかどうか」の問題

虐待事案の専門家グループによる対応

- 「助けてあげる」のではない。
対策を考える大人たちを「助けて欲しい」とお願いする。
- 被害の状況、警察、支援団体の対応などを教えてもらい、
次の対処へつなげる。
- トラウマを出させる。（ただし、万全のサポート体制）
- 対応について10項目の選択肢を提示して、実現をサポート。
（法務大臣と会う？警察長官と会う？教育長官に会う？Etc.）
ex.性被害にあった児童は…

第二子の出産， 北欧との出会い

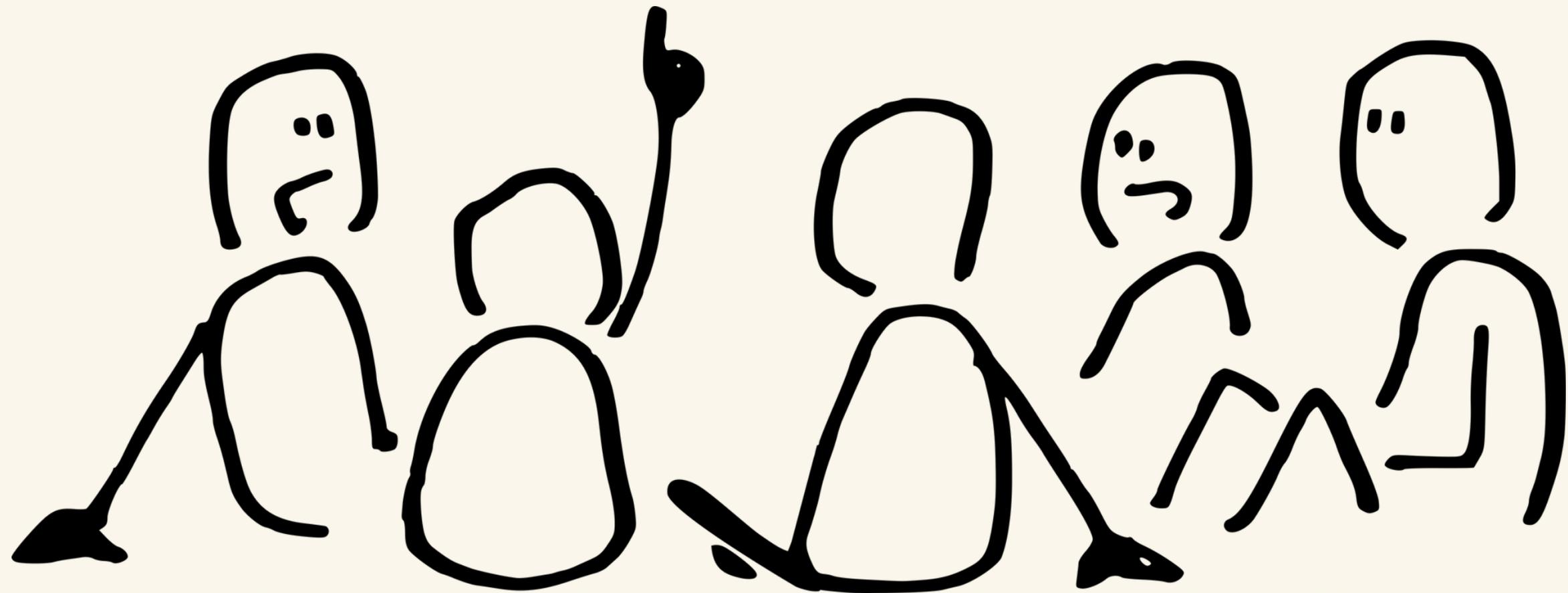
先輩弁護士の背中とジェンダー論

切り開かれてきた軌跡を見返す
「社会通念を変える」

ノルウェー視察と絶望

それまでの人権・平等・子どもの権利の概念崩壊
何もかもが違いすぎて、何も持ち帰れない！





個人の尊重・平等・デモクラシー

「自分で考えて行動する」ことを促す声かけ



子ども向けプログラムは「子どもを見てから」



自立を促す大人のかかわり



自分で決める、伝える、責任も取る



「かして」 「いいよ」 <集中して遊
ぶ

*ベルゲン市における小中学校評価会議

参加者：行政担当者，教頭・教師・保護者の代表，生徒代

表
事前に会議参加への準備として、民主主義、会議の目的や
内容についてのレクチャー

*アイスランドの小中学校の評価会議

生徒代表が、会議前に学校内のすべての学級を回って意見を聞き、それを会議で発表する。

「子どもたちには、知識を得る権利がある」

ユッカ・レヘトネン（フィンランドの性教育研究者）

「生活の中で、教師がまずジェンダー平等を理解し

,

「必要ないところで性別で分けない」

アイスランドの小中学校教師



保育者がリラックスすることが大事！

性別など属性にかかわらず
同じく機会を与えられる経
験



自分に関わることについて意見を聞かれ、それが尊重
され、問題解決につながる経験





家庭の中で，学校の中で，社会の中で

，

個人が平等に尊重されることを学ぶ

休
憩



子どもの声
を
“聴く”に
は



受け取る側（大人）の能力・感受性・意
欲

「そのために時間と労力を払うかどうか
」

「人権」の理
解

受け取る側（大人）の能力・感受性・意
欲

「そのために時間と労力を払うかどうか
」

人権

安心

自信

自由

生まれたときから、みんなが平等にもって
人が人として生きるために絶対に必要なもの

「CAP（子どもへの暴力防止）プログラム」より

ベクトルの向きの違い



生まれたときから、みんなが平等にもってい
人が人として生きるために絶対に必要なもの

「CAP（子どもへの暴力防止）プログラム」よ
り



生まれたときから、みんなが平等にもって
人が人として生きるために絶対に必要なもの

「CAP（子どもへの暴力防止）プログラム」より

り



自ら考え，自ら行動し，自らその結果を引き受け
る
自分で選ぶ（選択の自由がある）→主体性



生まれたときから、みんなが平等にもって
人が人として生きるために絶対に必要なもの

「CAP（子どもへの暴力防止）プログラム」より

り

自分の感情・選択を尊重される経験

大人が自分自身の「安心・自信・自由」を大切にする

姿



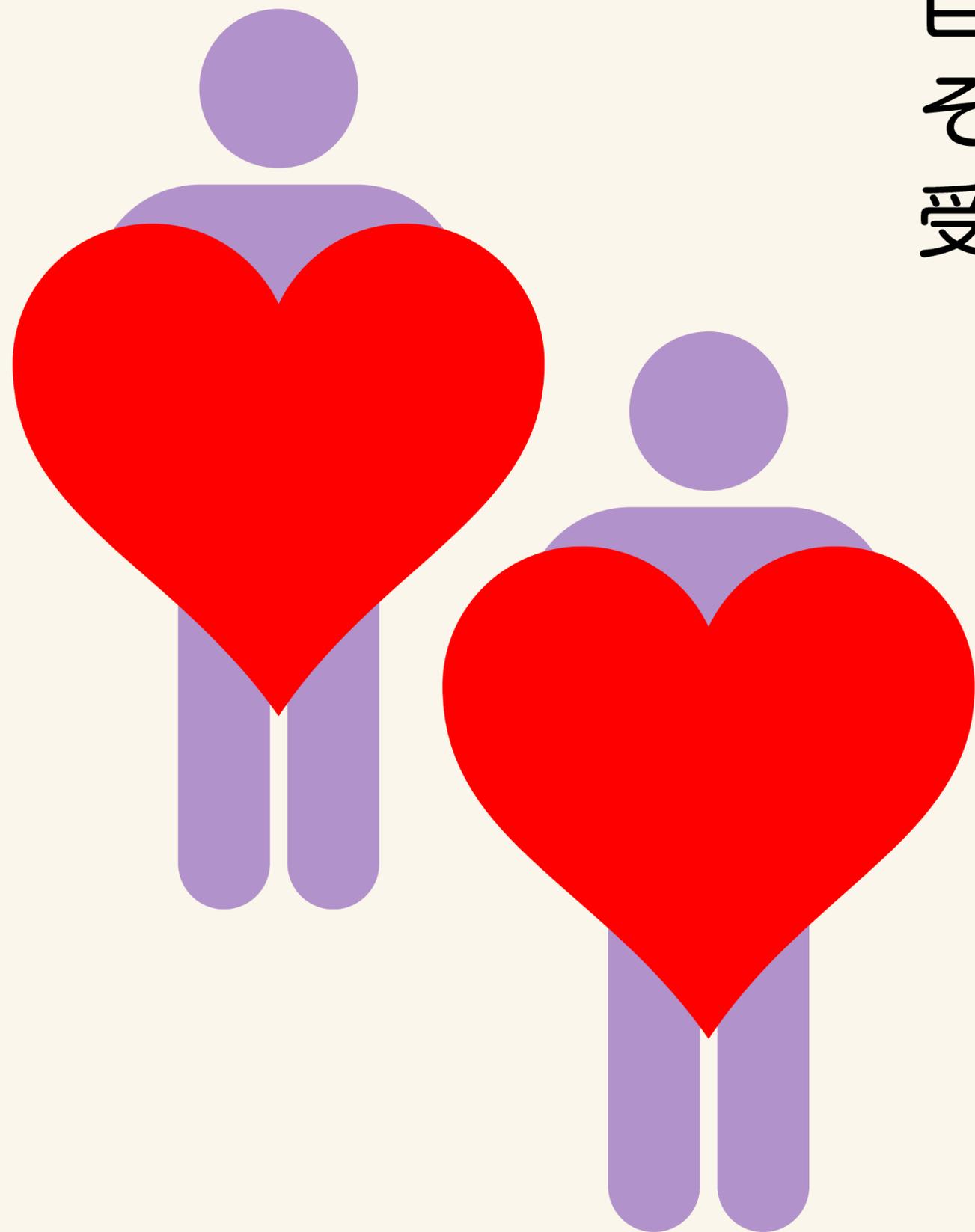
子どもたちは「人権」とはなにかを理解
子どもの権利が守られる社会が実現していく

子どもの声を“聴く”
ということとは

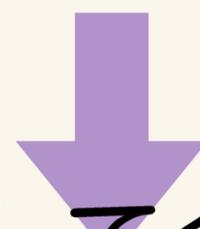


子どもに主体性を回復させる
る
エンパワメント

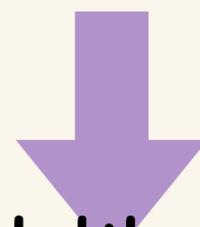




自分の中にあるもの（感情や感覚）を認識
それを聴いてもらい、
受け入れ、尊重してもらうこと



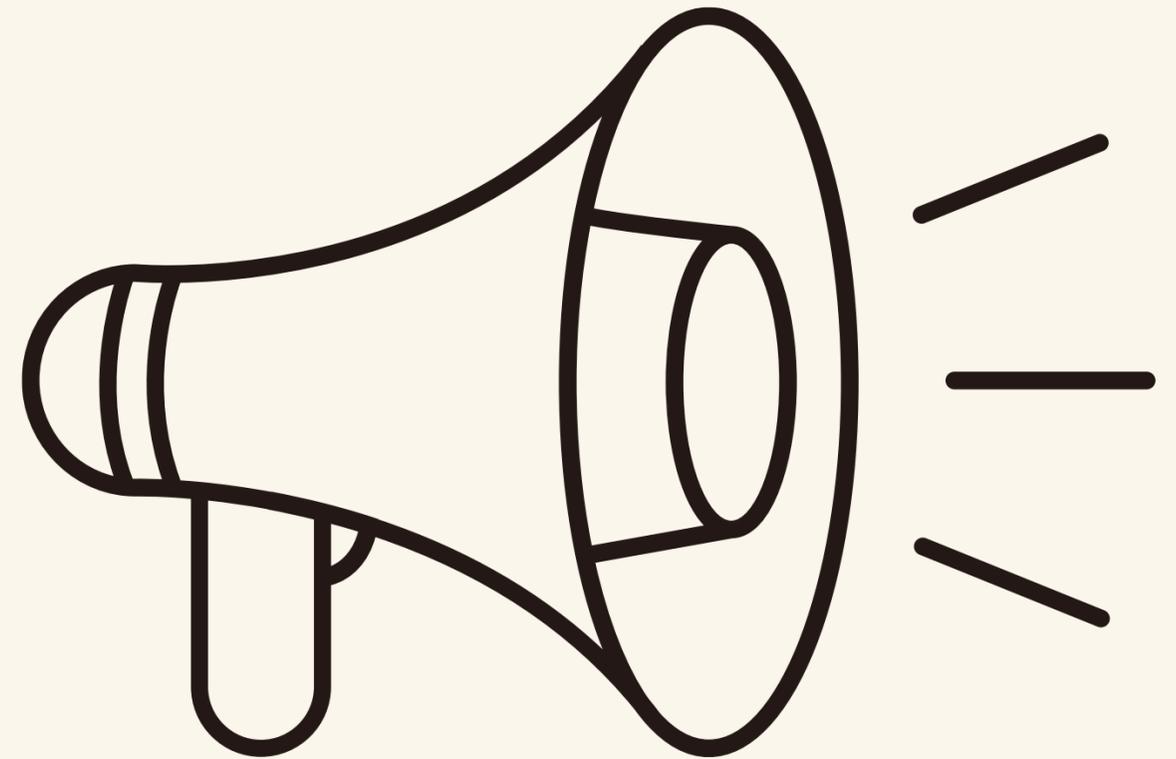
自分を尊重してくれる人との
「主体と主体」としての関係性



主体性を回復

自分が抱えている問題を主体的に解決しようとする

→ **意見表明**



表明された意見を一番に尊重する

→ **子どもの最善の利益**



子どもの声を
“聴く”のは

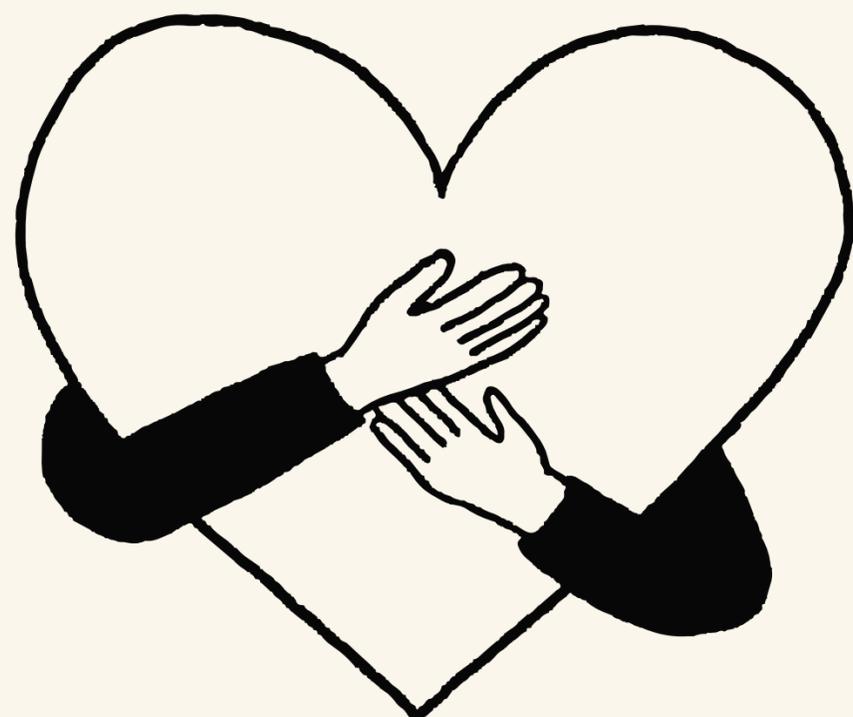




家庭の中で，学校の中で，社会の中で

，

いつも、あたりまえに
子どもたちの声が聴かれる



みらいく
子どもなんでも相談
子どもオンブズパーソン

家庭の中で，学校の中で，**社会の中で**

，
いつも、あたりまえに
子どもの声が聴かれ、それが生かされ
る

人権の授業を受けた小4の男の子の感想

自分に「人権」があると知って
「生きていく」と感じた

自分の感情・選択を尊重される経験だけではなく
大人が自分自身の「安心・自信・自由」を大切にする

姿



子どもたちは「人権」とはなにかを理解
子どもの権利が守られる社会が実現していく

ご清聴ありがとうございました

